



おちばで 笑顔と桜満開の春



第 587 号
発行所
天理教北海道教務支庁
札幌市中央区南 8 条西 11 丁目
電話 011 (561) 1148
FAX 011 (561) 1190
E-mail: tenrikyo.hk@gmail.com
ホームページ
<https://tenrikyohk.com>

春の学生おちばがえり

3 月 28 日「立教 186 年 春の学生おちばがえり」が本部中庭で開催され、北海道教区より 46 名（内学担 13 名）が参加した。

スローガンに「次代を担うようぼくへ」と掲げられ、「お道につながる学生がおちばに帰り集い、感謝の気持ちがあふれる姿をご覧いただき親神様、教祖にお喜びいただく」また《をやの思いを心に治め、共にたすけあい次代を担うようぼくへと成人していく》ことを誓い合う場となるように促された。

当教区の学生会はコロナの影響もあり、昨年 4 月に再スタートし今年 1 月に学生会スタッフがり立ち上がり、春の学生おちばがえり（＝春学）実行委員長が決定した。



フェリーにて

当初、学生会スタッフは、「参加してくれた皆さんに楽しんでもらえるだろうか？」喜んでもら

えるだろうか？」「上手くつとめる事ができるだろうか」と様々不安を抱いていた

が、限られた期間を一所懸命につとめ、参加学生とスタッフが互いを思いやり、たすけあう中で成長して行く様子が数多く見受けられた。

帰道後は、次回行事などでの再会を誓い、涙ぐみつつも感動の面持ちで帰路についた。

教区学生会として春学に団参を組み沢山の学生とおちばがえり出来ました事、心よりお礼申し上げます。

参加した学生の多くが別席を運んでくださいました。教会をはじめ保護者の皆様のお声掛けに感謝致します。ありがとうございました。

4 月から学生会活動がス

タートしています。今年度も引き続きどうぞ宜しくお願い致します。
（学担委員長 高橋清彦）



すべて喜び
すべておたすけ
北海道教区

教祖 140 年祭 北海道教区スローガン

基礎講座講師研修会

4月2日(日)教務支庁にて、天理教基礎講座講師研修会を開催。講師6名と事務局員が参加した。

開講にあたり、奥村教区長は、「信仰にはじめて触れられる方に、天理教の素晴らしさを感じていただく、大変重要な役目」とお話された。

研修会では、実際に3名の講師による模擬講座をつとめていただき、講座後にはねりあいを行い、言葉ひとつ、一挙手一投足に至るまで、天理教の教えの素晴らしさが分かりやすく伝わ



講師による模擬講座

るようにと、研鑽を深めた。

また、講師と事務局のねりあいの時間を設け、より良い基礎講座を目指し、一手ひとつにつとめられるよう意見を交わした。

今年度は地方開催にも力を入れ、5月7日(日)根室会場、7月9日(日)函館会場にて、基礎講座を開催させていただく予定。

— 年祭活動の一助として、基礎講座を活用していただきたいと思えます。どうぞ宜しくお願い致します —

(事務局長 佐藤元展)

里親啓発研修会

福祉厚生部

福祉厚生部(五十嵐仁部長)では、4月3日午前、里親啓発研修会を開催。教務支庁を会場にリモート併用で24名が参加した。

今回の研修会は、里親世帯の拡充、里親への理解を深める、里親相互の連携強化をねらいとし、講師に天理教里親連盟委員長の梅原啓次先生をお迎えし、



里親啓発研修会

体験談を交えて、わかりやすくお話しされ、里親の必要性を参加者に理解していただいた。

質疑応答では、30代の方より「教内だけではなく世間一般にも、里親のことを周知する必要があるのではないか」との意見があり、担当者側は「教内からの発信力の弱さや余力がまだまだあるのではないかと痛感した。

今後は、支部単位で開催するなど、きめ細やかな草の根活動を展開し、一軒でも多くの里親を増やすこと、里親へ繋がる理解を深める活動を進めていきたい。

前期支部担当者会議

福祉厚生部

福祉厚生部(五十嵐仁部長)では、4月3日午後、前期支部担当者会議を行い、教務支庁を会場にリモート併用で17名が参加。

開会后、教区長先生よりご挨拶をいただき、つづいて五十嵐部長の挨拶。活動報告と今年度の活動計画



支部担当者会議

では、福祉厚生部内のそれぞれの部署の動きの確認。

また今年度の一番大きな行事となる11月開催予定の「ようぼく保護司研修会北海道ブロック大会」についての説明と動員のお願いをした。

支部担当者は、半分程度の出席率だったので、今後は行事毎に周知や動員のためのきめ細やかな連絡が必要と課題もみえてきた。

支部育成委員長会議

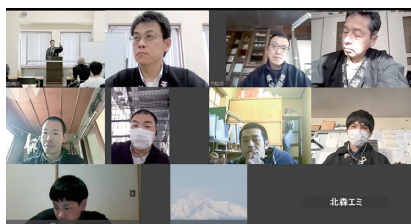
少年会

少年会(大脇直丸団長)では、4月1日、支部育成委員長会議を教務支庁にて、リモート併用で会議を実施。新委員会が発足後、初めての全体会議で20支部(内リモート7支部)計23名が参加した。

今年のこともおちびがえりや少年ひのきしん隊への現段階の思いを確認し、おちびへの輸送の効率化を図るため、各支部の動向を情報として共有する事を確認した。

また、各支部でのひのきしんや教会お泊まり会の開催をお願いし、その後、質疑応答、事務連絡を行った。

今後は、教区主催のキャンプを夏に予定している。次回は、より多くの方に対面での参加をお願いし閉会した。



少年会会議 リモート画面

縦と横

— 八雲支部長 浅井広則 —



この題目を見て、皆さんは何を思い浮かべるだろう。

「糸」中島みゆき氏の歌が浮かんだ人は凡人である。もし「縦の伝道と横の布教」が浮かんだ人がいるとするならば、紛れもない信仰者だ(笑)。そう言う私はというと、凡人だ。

平成 7 年に教会に帰ってきた私はすぐに支部の活動に関わることになった。以来、支部を運営する側の立場で現在に至るが、いつの頃からかある疑問が浮かび、自問自答しながら支部運営を務めていた。

— その疑問とは —

「支部は必要?」

「何のための支部活動なの?」

おちばから帰ってきた当初は、その勢いのままやっていったが、支部の活動はおちばでやってきたようには上手くはいかない。小言を言われた時もあり、不足に思った事もあった。

そんな時に前会長である父に、「本部と支部では、人材や

財源、設備において全てが違う。そのままではめても上手くいかない。本部と思いは同じでも、支部の現状に合った方法を考えないと」と言われたことがある。

前真柱様は、少年会長様時代に縦の伝道と横の布教を「車にとえるならば両輪と申すべき



もの」とお話し下された。

また、縦は系統、横は地域と

もとえられる。

ここからは、私個人の悟りだが、おちばから縦の糸のように、天の理・教えの理が系統を通して世界中に何本も流れている。

しかし縦糸だけでは風が吹いたら絡まったりと心許ない。横糸があればもつと安定する。そ

れが地域・教区支部であろう。支部内には色々な縦の糸(所属教会)の人達がいる。縦の糸の教友が横に両手を広げて繋がれば、一人一人は細い横糸でもたくさんいればやがては布と迄は行かなくとも、網目位にはなつて安定するだろう。

また車の両輪ならば、それを繋ぐ軸がある。それは、私達の唯一人の「理の親」教祖であると思う。「理の親」は、今も存命でお働き下されているのだから、これ程力強いことはない。

支部という団体には、ようばくも信者も所属していない。必ずどこかの教会に所属している。だから支部を盛り上げようと思えば、それぞれの教会を盛り上げなければならぬ。

結局支部の活動とは、そこにある教会の活動である。

年祭へ向かう時旬に、縦の糸と横の糸がたくさん繋がるように。また支部内の教会や教友が信仰を深める為、我が教会を勇める為の手段の一つとして、支部活動を利用してもらえるような動きを模索していきたいと思う。

しかし「縦と横」と言えば、やはり「糸」が真っ先に思い浮かぶ。心に響く名曲である。

教区スタッフ会議

災害救隊

災害救援ひのきしん隊北海道教区隊(三幣敦志隊長)では、3月30日、31日教務支庁を会場にスタッフ会議を実施し、リモートを含む18名が参加。

新年度よりスタッフを増員する事となり、新しいスタッフを交えての会議となった。



雨の中 神名流し

行った。

また今年度の平時訓練の説明と来年度の北海道・東北ブロック訓練についての説明がなされた。

翌31日には、神名流しを実施し、その後、庁舎清掃ひのきしんを行い、また案内作成作業をして散会した。

訃報

立教一八六年・令和5年

野木 満義様 2月19日出直(80歳)
北中央分教会前会長 (苫小牧支部)

佐々木 美智子様 3月23日出直(84歳)
統化分教会長 (札幌東支部)

皇沼 志江様 4月7日出直(81歳)
北歳分教会前会長 (南空知支部)

お詫び

教区報586号(4月号)の4ページ訃報欄に誤りがありましたので、訂正致します。

川浦康男様

×寿都分教会 ↓ ○郷壽分教会

ご迷惑をお掛け致しました事をお詫び申し上げます。

各地の動き

●南空知支部少年会総会

南空知支部（中川俊章支部長）では、3月21日、栗山分教会にて支部少年会のおつとめ総会を4年ぶりに開催した。

新型コロナウイルスの影響で、少年会を含む様々な教内活動の中止が相次ぎ、しかしながら、『少しでも多くの子供たちに楽しんでもらえるように』との思いで、感染対策を万全にした上で、少年会活動の再開の第一歩としての開催となった。総会は、礼拝、おつとめ（座



りづとめ・よろづよ八首、教区団長メッセージ、神殿掃除ひのきしん、その後、お楽しみゲーム大会と、大いに盛り上がった。今回は新たな試みとして、少年会担当者だけでなく、各会の協力を得て、企画運営にあたり、新しいアイデアが続出した。当日は少年会員32名・育成会員28名の合計60名と、多くの道の子たちが参加し、おつとめやお楽しみ行事を通じて、終始笑顔が絶えない陽気な総会となった。参加された方から『子供たちが喜んでる姿を見て、参加して良かった。』という感想をいただいた。（支部社友岩佐）

新教会長さん紹介

（令和5年3月26日お運び）

天龍支部 高臺分教会（北陸）
奉告祭 6月18日



北森 吉朗 氏 47 歳

渡島支部 江差道分教会（洲本）
奉告祭 6月3日



福島 勇 氏 47 歳

富良野支部 幾寅分教会（秦野）
奉告祭 6月11日



中村 孝典 氏 42 歳

倶知安支部 神園分教会（秦野）
奉告祭 6月4日



久保田 英伸 氏 39 歳

函館支部 北稜分教会（敷島）
奉告祭 5月5日



甲谷 勢一朗 氏 38 歳

●ふせこみひのきしん

3月29日の教務支庁ふせこみひのきしんは、庁舎敷地内と周辺のゴミ拾い、窓拭き、トイレ掃除、窓のサッシ掃除などを行った。21名が参加。



庁舎外の窓拭き

今回は、教務支庁にて5月29日

北海道教務支庁日誌抄

4月1日 青年会 Meets!

少年会支部育成委員長会議
編集長会議

2日 一手一つお願いつとめ
支部長会議

3日 基礎講座講師研修会
里親啓発研修会

4日 福祉厚生部支部担当者会議
札幌中南支部例会

15日 会計部会議
16日 教区長婦本

18日 教祖御誕生祭遥拝式
19日 教区長婦帰

23日 やまびこ会
24日 教区長婦本

25日 教区長会議
26日 本部月次祭遥拝式

運営委員会
主事会

27日 教区長婦帰
29日 全教一斉ひのきしんデー

教務支庁ふせこみひのきしん
青年会支部委員長会議

30日 おうた合唱団
たすけ推進会議

一れつ会懇談会

—— けいじばん ——

◎法律に関わる諸問題でご相談の方は弁護士を紹介致します。教務支庁書記・渡部までご連絡下さい。

◎毎月26日に本部月次祭遥拝式を午前10時より行っています。

◎ホームページでは、教区報に未掲載の記事や投稿いただいた記事も随時掲載しています。

また記事の投稿もよろしくお願致します。



詳細は、HPにて